

第150期 第2四半期のご報告

2014年4月1日～2014年9月30日



NEWS FLASH

お客様の価値創造のため研究開発や 人財育成の新拠点を国内外に建設

Nittoは、中間材料メーカーとして変化する市場環境の動きをいち早くキャッチしながら、自ら変革を遂げることで世界中のお客様に様々なソリューションを提供してきました。現在では、約70の業界に13500の製品を提供しています。

このたび、アメリカ、シンガポール、スイスに次ぎ、中国の青島工業技術研究院内にNittoにとって同国初の研究センターとなる日東（青島）研究院を設立しグローバルなR&D体制を一層強化します。Nittoの持つ要素技術をベースに新材料を中心に研究開発を行い、農業、エネルギー、環境に関連した分野に向けた新製品を生み出していきます。

日本では、Nittoイノベーションパークを大阪茨木事業所内に設立します。今後、ますます激しくなるグローバルな競争を勝ち抜いて、新規ビジネス等の創出を行っていくために、研究開発と人財育成を一体的に行っていきます。

Nittoは2018年に100周年を迎えます。グループ一丸となって社会から信頼され未来に向かって成長しつづける100年企業の実現を目指します。株主のみなさまにおかれましては、従来同様ご支援ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



中国青島工業技術研究院全景
と日東（青島）研究院



建設中のNittoイノベーションパーク(仮称)

株主のみなさまにおかれましては、日ごろからのご理解とご支援を賜り、
厚く御礼申し上げます。

2014年度前半の概況と、今後の経営の方向性についてご報告申し上げます。

2014年度前半を終えて

積極的な投資を行ってきました情報機能材料事業は、液晶ディスプレイ向け偏光フィルムが、サッカーワールドカップ開催によるTV需要の増加や中国市場を中心としたスマートフォン市場の拡大に加え、先進的な新製品の投入も寄与し、着実に売り上げを伸ばしました。タッチパネル用透明導電性フィルムは、タブレットPC減速の影響は受けたものの、中国系スマートフォン向けが堅調に推移しました。プリント回路やプロセス材料もスマートフォンの拡大や堅調なノートPC市況を受け好調に推移しました。

インダストリアルテープは、着実に売上を増やしています。メディカル（医療関連材料）は、国内は経皮吸収型テープ製剤が薬価改定や後発医薬品促進の影響を受けて伸び悩みましたが、米国の核酸医薬グループ会社において受注が好調に推移しました。メンブレン（高分子分離膜）は、中国市場でのボイラー用水向けなどの一般産業用に加え、海上油田等の案件受注も増えており、好調に推移しました。

これらの状況と年度後半の見通しをふまえ、想定為替レート1ドル105円を前提として、今年度の計画について売上高8050億円（前年度比107.4%） 営業利益880億円（前年度比121.4%）へと上方修正いたしました。達成に向け、社員一丸となって取り組んでいきます。

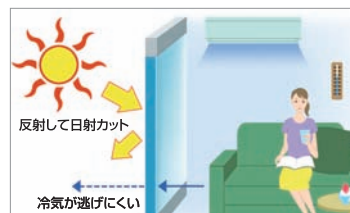
さらなる事業拡大に向けて

持続的な経済成長に不可欠である社会的コスト低減や環境負荷コスト低減への貢献を念頭に、“グリーン、クリーン、ファイン”（環境、新エネルギー、ライフサイエンス）など新たな事業領域への展開を近年進めてきました。

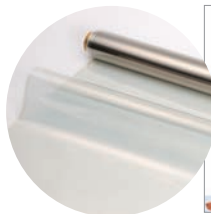
代表取締役 取締役社長
CEO・COO

高崎 秀雄

夏でも冬でも省エネ効果、窓用省エネ（遮熱・断熱）フィルムPENJEREX®（ペンジェレックス）シリーズ。明るさを損なわない可視光透過率70%以上の透明性です。



夏（遮熱・断熱性）



冬（断熱性）

例えば、クリーンに関する事業領域では、冷暖房の効率を向上させ省エネ効果を発揮できる窓用フィルム“ペンジェレックス”を上市し主に国内で施工を開始しました。このフィルムは遮熱と断熱の二つの効果を兼ねており、室内を夏は涼しくし冬は暖かくするのに貢献します。また、グリーンの事業領域では、豊橋事業所内のATC（オートモーティブ テクニカル センター）をリニューアルし、軽量化やエレクトロニクス化が進む自動車産業向けに、付加価値の高い製品の提供を実現していきます。



ATC内の
音響試験室

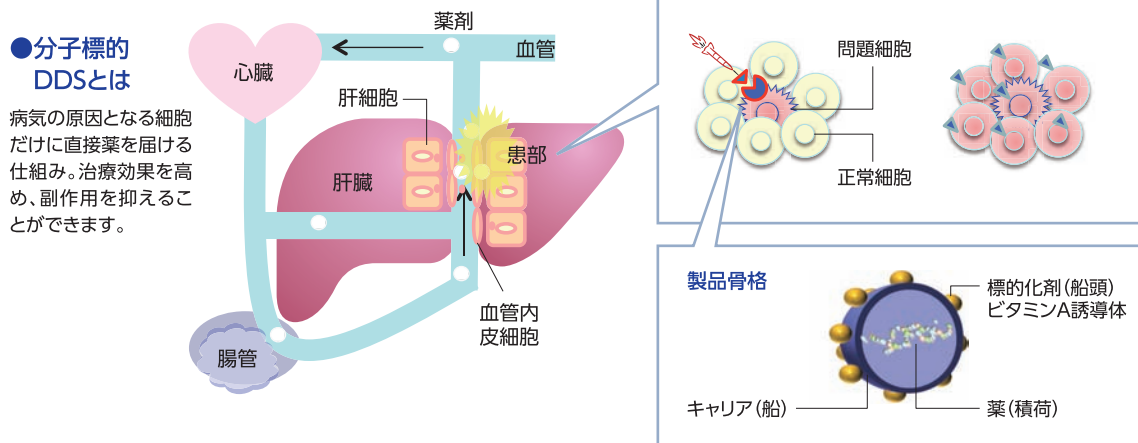
配当金について

配当金につきましては、株主のみなさまへの安定的な利益還元を経営上の最重要課題の一つとし、また財務体質の強化と技術革新や事業展開に備えた先行投資、内部留保にも配慮したうえ、利益状況、配当性向等を総合的に勘案して実施することとしています。この基本方針のもと、2015年度3月期の連結業績予想の修正を踏まえ、1株あたり年間配当を従来予想より10円増額して110円とする予定です。

TOPICS 1 根治につながる治療薬の開発へ注力 肝硬変治療薬、患者さまへの治験を開始

分子標的DDS(ドラッグ・デリバリー・システム)技術を用いた肝硬変治療薬では、健常者への安全性が確認されました。2014年9月より米国にて患者さまへの治験を開始して安全性や治療効果の検証を行っていきます。

*分子標的DDSとは、キャリア(船)に入った薬剤を標的化剤(船頭)が患部まで直接届けて治療させる方法です。肝硬変に限らず他の臓器線維症への適用も検討しています。



TOPICS 2 特許活用優良企業として「知財功労賞」経済産業大臣表彰を受賞 知的財産を有効活用する戦略が外部から高く評価されました

液晶用偏光フィルムを自社で製造・加工を行い運搬してお客様が現地で貼り合せを行うモデルから、お客様の工場に貼り合せ設備を導入しNittoが貼り合せを行うビジネスモデル(ロール トゥ パネル)へ変更し、このビジネスモデルを知的財産で保護するために、関連する特許を権利化しました。事業起点型の知的財産保護として特許庁が2013年度から実施している「事業戦略対応まとめ審査」の原型となりました。



経済産業大臣表彰 知財功労賞 受賞の様子

TOPICS 3 個人投資家さま向け説明会開催

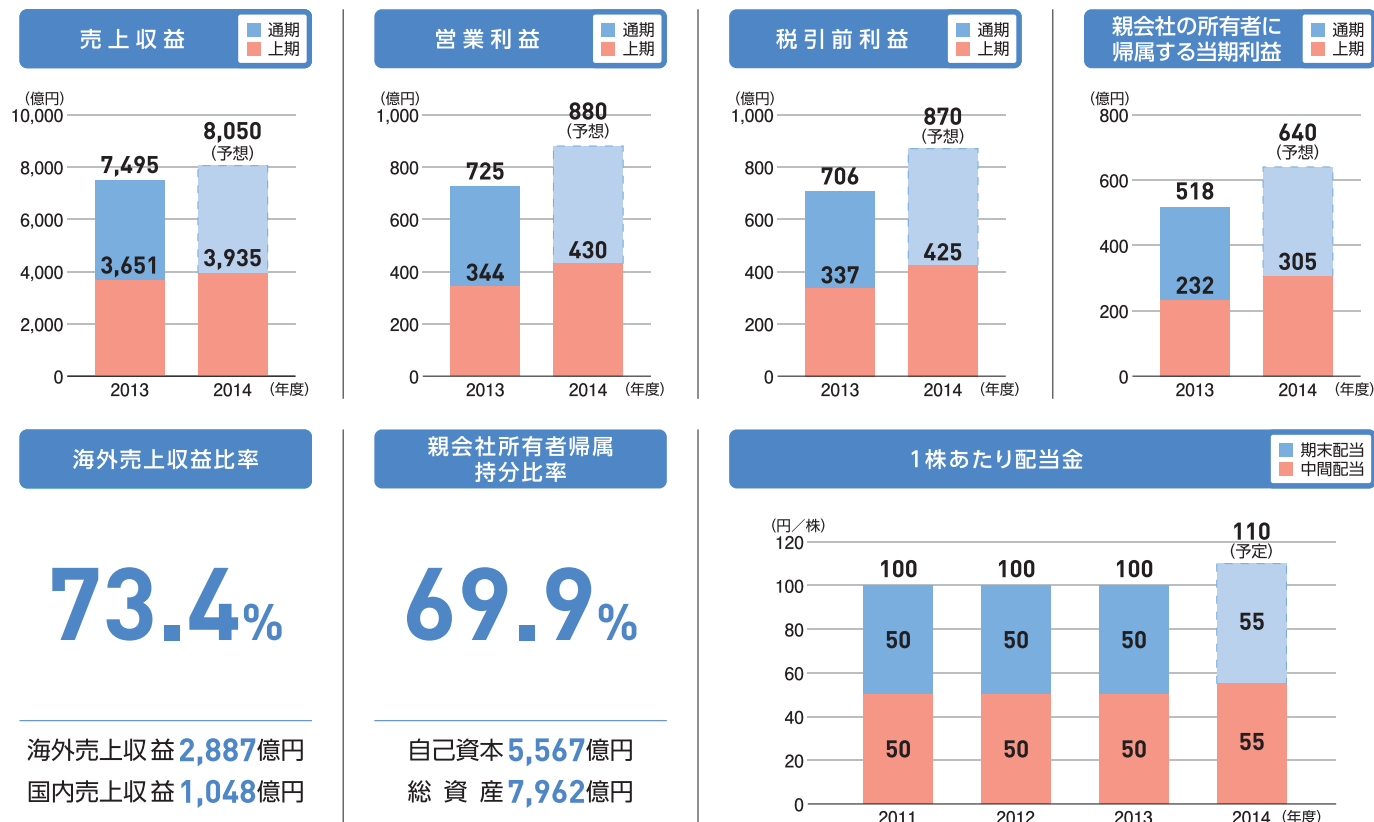
東京を中心とする関東圏、関西、九州にて説明会を開催し、会社概要や業績説明に加え中長期での各事業の成長戦略等を説明しました。毎回、質疑応答では、特定の業界や製品に限らず多数の質問が出されました。今後も株主さまや個人投資家さま向け説明会の開催を継続していきます。



大阪で開催した説明会の様子
300名近い投資家さまが参加くださいました

業績ハイライト

※当社は、2015年3月期決算からIFRSを導入しており、IFRSベースの数字にて開示しています。



IFRSでは売上高(従来表示)を売上収益と表示しています。

ポイント

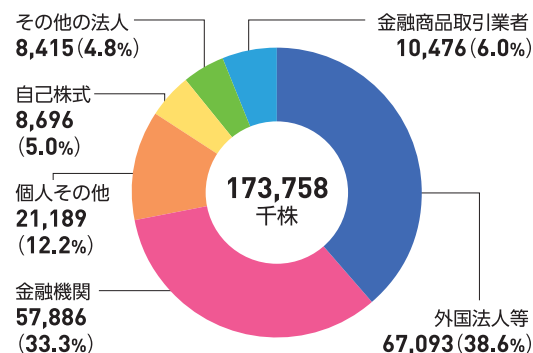
- 1 上半期は、大型テレビ向けやスマートフォン向けの情報機能材料や基盤機能材料等の製品により増収増益(前年同期比)となりました。
- 2 下半期は、スマートフォンやタブレットPC向けの注力を継続しつつ、自動車関連材料や紙おむつ用テープ等の成長テーマへも取り組みを強化します。
- 3 配当は、今年度計画の上方修正をふまえ、1株あたり年間配当を従来予想より10円増額して110円とする予定です。

株式の状況 (2014年9月30日現在)

発行済株式の総数 173,758千株
株主数 45,510名

所有者別分布状況

(単位: 千株)



株主メモ

証券コード 6988(業種:化学)
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当受領株主確定日 3月31日(期末配当)、9月30日(中間配当)
定時株主総会 6月
単元株式数 100株
上場金融商品取引所 東京証券取引所
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話:0120-094-777(通話料無料)

※株式に関するお手続きについては、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.nitto.com/jp/ja/ir/stock/procedure/>

Nitto

日東電工株式会社 〒530-0011 大阪市北区大深町4番20号 グランフロント大阪 タワーA 33階

UD
FONT
by MORISAWA